

# 技術・家庭科(家庭分野)学習指導案

## I. 題材名 住生活と自立 (家庭分野 B衣食住の生活 (6)ア(イ)、イ)

### II. 考察

#### 1. 教材観

本題材において、小学校の家庭科では、暑さ・寒さ、通風・換気及び採光に重点をおいた快適な室内環境の整え方についての学習をした。中学校では、住居の機能と住まい方に関する学習を通して、自分や家族の住空間に関心を持ち、住居の基本的な機能や安全に配慮した室内環境の整え方を知るとともに、安全で快適な住まい方を考え、具体的に工夫できるようにすることをねらいとしている。

近年の住まいは、一戸建て住宅のほかに、限られた土地の中で多くの人々が暮らすことができるよう高層マンションなどの集合住宅が増加してきている。住まい方においても、和風に限らず洋風主体の住まい方が多く見られる。そのような中で、家族の規模においては、少子高齢化により規模が縮小しており、家族の一員として担う役割が大きくなってきている。中学生にとっての住生活とは、個人の部屋を持ちたいという願いや、インテリアに興味関心が高い傾向が見られる。しかし、自分の生活をよりよいものにしていこうという意識は低い。

そのため、本題材では、住生活が衣生活や食生活と同じように、人として生きていくために必要不可欠であることを理解させ、安全に配慮したよりよい空間で暮らすことの大切さを実感させたい。特に、室内安全については、自然災害が多発していることから災害への備えと事故の防ぎ方を取り上げ、安全管理の方法を理解させるとともに、安全な住まい方について考えさせることで、実践しようとする態度や能力を育成したいと考え、本題材を設定した。

#### 2. 教材の系統

安全に関する内容として、小学校では課題学習を中心に「身の回りの整理整頓」を学んでいる。中学校では、自分だけでなく、幼児や高齢者を含めた家族にとっての安全で快適な室内環境を考えさせる。「気温、湿度、換気」や「家庭内の事故の種類と原因」「自然災害にそなえての住まいの安全対策」など具体例を挙げて指導することで、自分の住まいを見直すきっかけになると思われる。また、家族の一人一人に視点をあてて、それぞれにとっての危険箇所に着目し、事故の防ぎ方や安全管理について現在や将来の生活実践に役立つ方法を考えられるように指導していく。

### III. 指導目標

課題をもって、健康・快適・安全で豊かな住生活に向けて考え、工夫する活動を通して、家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能、家族の安全を考えた住空間の整え方に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、これからの生活を展望して、住生活の課題を解決する力を養い、住生活をよりよくしようとする実践的な態度を育成する。

### IV. 評価規準

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"><li>自分や家族の住空間と生活行為の関わりについて関心をもって学習活動に取り組んでいる。</li><li>安全で快適な室内環境に関心を持ち、整え方や住まい方の課題に取り組もうとしている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>室内環境について課題を見付け、調査・観察を通して、安全で快適な室内環境の整え方</li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>住居の基本的な機能について理解している。</li><li>安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法について理解している。</li></ul>

	や住まい方について考 え、工夫している。	* 家庭内事故の防止や自 然災害への備え * 室内の空気調節
--	-------------------------	--------------------------------------

## V. 指導方針

- 「住」については、具体的な体験を通して指導することが難しい。実際の住居を使っでの学習は容易にできることではないし、中学生が現在の住まいを大きく変えることも困難である。そこで、住まいを建物として考えるのではなく、家族の様々な気持ちや行動があらわれる生活の場としてとらえさせたい。そして、住まいについて受身ではなく、自分たちにもできることがたくさんあることに気付かせたい。
- 生徒が関心をもって学習に取り組めるように、非常時の備えを事前に調査したり、実物や写真等を多く活用するようにする。
- 主体的に考えをもたせるために、4人1グループによる話し合い活動を設定する。なお、話し合いについては、発言した人の考えに耳を傾け、様々な意見を聞いて良さを受け止め、さらに自分の考えを深めていけるように声かけをしていく。
- 自分の考えや班の人の意見が一目で見てわかるようなワークシートを工夫する。
- 発表に対して消極的な生徒については、自分なりの気付きや意見を自分に合った方法で発表させ、他の人に伝えることができるようにする。

## VI. 指導と評価の計画（全6時間予定）

時	主な学習活動	評価規準（評価方法）【観点】	指導支援の工夫
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住まいにはどんなはたらきがあるのか考える。</li> <li>・ 住まいに必要な空間について考える。</li> <li>・ 住まいのはたらきの学習で出た生活行為をどの住空間で行っているのかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住まいのはたらきには、精神的なはたらきと機能的なはたらきがあることを知る。（ワークシート）【知】</li> <li>・ 住まいに必要な空間についての分類ができる。（ワークシート、挙手、発言）【知】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族が暮らしていくのに住まいに求められる条件について意見を出し合い、一人ひとりが考えられるようにする。</li> <li>・ 住まいの中で行われている生活行為も考えられるようにする。</li> <li>・ それぞれの生活行為を考える際、付せんを使って考えられるようにする。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書の家族一人ひとりの状況を考え、誰がどこの部屋がいいのかを班で検討する。</li> <li>・ 和・洋室の特徴を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族が心地よく住むためにはどんな工夫をすればよいのかを考えることができる。（ワークシート、発言）【工】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書の家族一人ひとりの状況を考えるよう促す。</li> <li>・ 一人一部屋の部屋割りは難しいので、家族をどの組み合わせで使用していくかを検討させるようにする。また、なぜその部屋にしたのか理由を明らかにする。その場合、利点と欠点も含めて考えられるようにする。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住まいにおけるカビやダニなどが発生しやすい場所について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 室内の空気汚染の原因と空気調節の方法がわかる。（ワークシート）【知】</li> <li>・ 健康に配慮した住まい方について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班で教科書の間取りを使って、カビやダニが発生しやすい場所に印を付けて考えるよう促す。</li> <li>・ 室内の空気汚染の原因について</li> </ul>

3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内の空気を汚染する要因となるものを知る。</li> <li>・換気の必要性について知る。</li> </ul>	<p>て工夫することができる。(ワークシート、発言)【工】</p>	<p>て、教科書を参照しながら説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住まいの化学物質やシックハウス症候群についてもふれる。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭内の事故の種類と原因についてどのようなものがあるのかを知る。</li> <li>・高齢者や幼児の身体と行動の特徴について考える。</li> <li>・家庭内で安全に住むためにどうすればよいのかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭内事故の種類とその原因がわかる。(ワークシート)【知】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までに自分たちが体験した家庭内の危険なことを発表させる。</li> <li>・特に高齢者や幼児の事故が多いことに気付かせる。</li> <li>・家庭内で危険な箇所をリストアップさせ、それに対する安全対策を考えるよう促す。</li> </ul>
5 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害に対して、日頃からの備えとして準備しておくべきこと、家庭や家族の被害を最小限にとどめる方法を知る。</li> <li>・自分の家に必要な非常用持ち出し袋の中身を考える。</li> <li>・被災して体育館などの避難所に住まうことになったとき困ることを考える。</li> <li>・地域の助け合いの重要性を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の家に合った安全管理の工夫を挙げることができる。(ワークシート、発言)【工】</li> <li>・地域とつながる視点から安全で快適な住まい方について意見をまとめることができる。(ワークシート、発言)【工】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家屋の倒壊まで引き起こす地震災害の被害を防ぐことは難しいが、家具の固定等日頃の備えにより、被害を最小限にし、家庭内の安全管理ができる方法があることを知らせる。</li> <li>・災害に対する備えとして最も大事なことは、安全の確保であり、家族の安否の確認であるので、そのためには、日頃から地域の避難場所の確認や避難の方法、家族との連絡の取り方などを確認し、それらの内容を家族全員で分かるようにしておくことが必要であることを伝える。</li> <li>・物資や避難所の備えだけでなく、常日頃から地域ぐるみで防災訓練をしていたり、近所づきあいがあることが、非常時には大切であることを理解させる。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅で行っている、または行うことができる省エネルギーにはどんなことがあるか考える。</li> <li>・持続可能な社会に向けて、住生活から考える。</li> <li>・住生活の自立に向けて、どのようなことができるようになって</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な省エネルギーの取り組み方を考えることができる。(発表、ワークシート)【関】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な社会に向けて、住まい方が深く関係していることを確認する。</li> <li>・日本の伝統的な民家の特徴を考えさせる。</li> <li>・ゼロ・エネルギー住宅について説明する。</li> <li>・年度初めに自分が記したワークシートを確認させる。</li> </ul>

たか振り返る。

## Ⅶ. 本時の学習（5／6時間）

1. 目標 自然災害に備えて、家庭の実態を把握し、住空間の整え方について考えることができる。
2. 準備 教師：地震発生時の写真、モデル家族の家の室内の図、ワークシート、非常用持ち出し袋、金具・ガラス飛散防止フィルム等の実物  
生徒：教科書
3. 展開

ねらい（時間）	生徒の活動	支援及び留意点・評価
1. 本時のめあてをつかむ。 〈全体〉 （10分）	<ul style="list-style-type: none"><li>・前時に学習した、家庭内の安全について確認をする。</li><li>・地震発生時の室内の写真を確認する。<ul style="list-style-type: none"><li>☆家具が倒れている。</li><li>☆窓ガラスが割れている。</li><li>☆照明や壁にある絵などが落ちている。</li><li>☆ドアが家具でふさがれて開けられない。</li><li>☆火災が起こっている。</li></ul></li></ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">自然災害に備えて、住まいの安全対策を考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"><li>・住まいの中でもたくさんの危険があり、安全対策をとる必要があることを改めて確認をさせる。</li><li>・家具の配置や備え付け方によっては、非常時に避難の妨げになることに気付かせる。</li><li>・二次災害として、火災が発生することがあることも理解させる。</li></ul>
2. 地震への備えについて考えることができる。〈グループ〉 （15分）	<ul style="list-style-type: none"><li>・モデル家族の家の室内の図から、危険な箇所を挙げる。<ul style="list-style-type: none"><li>☆たんすがドアの近くにある。</li><li>☆本棚が固定されていない。</li><li>☆石油ストーブがついている。</li></ul></li><li>・危険な箇所の対策を考え、ワークシートに記入する。<ul style="list-style-type: none"><li>☆家具の配置を考える。</li><li>☆家具を固定する。</li><li>☆ストーブはすぐに消火する。</li></ul></li><li>・班で考えた意見を、ホワイトボードで発表する。</li><li>・その他に準備しておくべきことを考える。<ul style="list-style-type: none"><li>☆非常用持ち出し袋</li><li>☆避難方法、家族との連絡の取</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・具体的な室内の図から、危険箇所を考えさせる。</li><li>・高齢者や幼児がいる家庭では、逃げ遅れがあるので、より危険度が高いことを理解させる。</li><li>・家具の転倒や下敷きにならないための対策、ガラスの破片を防ぐための対策、二次的に発生する火事を防ぐ対策について考えさせる。</li><li>・発表させる中で、重要点をまとめていく。実物で示せるものは実物を示し、理解を助けるようにする。</li><li>・非常用持ち出し準備品（実物）を示す。</li><li>・日頃から家族で、家の中で一番安全な場所を決めておいたり、避難方法、連絡の取り方など、いざというときのことについて確認をしておくことが大切であるこ</li></ul>

	り方 ☆避難場所や非常時の集合場所	とを伝える。
3. 自分の家の安全対策について考えることができる。〈個人〉 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人が自分の家庭や家族を意識した危険箇所を確認し、安全対策についてまとめる。 ☆自分の部屋の本棚が倒れるとドアをふさぎそうだから、移動する必要がある。 ☆高齢者がいるから、和室のタンスの位置をずらす必要がある。 ☆幼児がいるから、非常用持ち出し袋に好きなおもちゃを入れよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各家庭の危険箇所を挙げさせ、安全対策を記入させる。</li> <li>家庭内での連絡方法や非常時の集合場所等についても考えさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自分の家に合った安全管理の工夫を挙げることができる。 【工】(ワークシート、発言)</p> </div>
4. 災害時の暮らしの中でも、豊かで潤いのある暮らしにする方法を考えることができる。〈全体〉10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮設住宅のつくりの違いから、生活がどのように変わるか考える。 ☆玄関が向かい合わせになると、挨拶がしやすくなる。 ☆言葉を交わせると、元気が出てくる。</li> <li>普段から地域がつながり支えることで、防災・減災・復興を支えることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一世帯あたりに振り分けられた簡易間仕切りは、約2m×2mと大変狭いことを伝え、不便であることに気付かせる。</li> <li>屋根があり雨露をしのげれば住まいの機能は足りているものではないことに気が付かせる。ある程度の長さで居住するのであれば、個人や家族の生活が成り立つ環境の必要性に気付かせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>地域とつながる視点から安全で快適な住まい方について意見をまとめることができる。【工】(ワークシート、発言)</p> </div>
5. 本時の振り返りをまとめることができる。〈個人〉(5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習で解決できた課題についてまとめ、ワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段何気なく行う町内会活動や町内行事の継続が、いざというときの助け合いや結束につながることを実感させるようにする。</li> </ul>